

事例5-14

取組名	無料アプリ『LINE WORKS』を活用した町会運営		
町会名	はた 波田19区町会（波田地区）	町会 データ	・人口／589人 ・世帯数／236世帯 ・高齢化率／24.3% ・町会加入数／187 ・隣組数／13
取組概要	○ 無料アプリを導入し、町会内の安否確認、グループ連絡、資料配信、スケジュール管理に活用		

背景・課題

- ・ 個人情報保護の観点から、町会内には隣組も含め連絡網がない。
- ・ 隣組数も多いことから、会議の開催通知を始め、多くの紙資料を配布する必要があり、情報を迅速に伝達することができていない。

経過・取組内容

- ・ 情報を伝達するためのツールとして、多くの会社で利用しているLINE WORKS（LW）を導入
- ・ 管理者は町会長で、町会（非営利団体向け特別プラン）で申請すると、1,000人までの登録は無料であることから、現在LWの利用に関する経費は発生していない。
- ・ R6年度から町会役員用として試行を開始。通知の際には、連絡内容や資料を添付した。
- ・ 試行期間中、全戸へアプリの導入を案内し、参加を呼び掛けたところ、約70世帯が加入した。（ただし、LWアプリの登録が必要）
- ・ R6.3の町会総会で承認を受け、本格導入を開始。現在130人が参加している。（同一世帯で複数名参加可能）
- ・ 議案書に目的、メリット、運用方法、LW会社概要等を詳細に記載している。

<具体的な運用>

- ① 安否確認
 - ・ 市が行う防災訓練に併せて、町会が行う安否避難訓練時の安否確認に利用
- ② 組織別グループ化
 - ・ グループとして、町会役員会、隣組長会、全隣組を作成。階層化することで、参加者を複数のグループに登録することができる。
- ③ 資料の配信方法
 - ・ 管理者が広報等の資料をPDF化して配信。簡単にPDF化する環境も整えている。
- ④ スケジュールの閲覧
 - ・ カレンダー機能を利用し、スケジュールを登録している。

成果・今後の展望等

- ・ 住民への周知が迅速になった。また、通知後、登録者の既読状況を把握することができ、大変都合がよい。
- ・ 当面は、デジタル配信とともに、紙資料（広報・回覧等）の配布を併用するハイブリッドで運用していく。
- ・ 町会役員が交代した際、アプリを引き継げるかが課題。

【ポイント】

- ▼ 無料アプリ（LINE WORKS）を活用することで、経費負担なくデジタル化を推進